

自然を取りもどすために (自然空間の回復)

児童用副読本8～9p

大阪湾沿岸では、自治体各種団体、地域の人々、NPOなどが協働して、大阪湾の水際空間に、緑地、干潟、わんど、磯場、藻場、海浜などを創造して、大阪湾臨海部を人々が憩い、遊び、学ぶ多様な水際空間とみどりが連続する「大阪湾・水とみどりのネットワーク」として再生する重点プロジェクトが進められている。

学習のポイント (自然空間回復のための重点プロジェクト例)

水質の改善

●コンブの育成実験による水環境の改善

14ページ参照

多様な生物の生息・育成

●緩傾斜石積護岸・藻場造成 (関西国際空港2期事業)

関西国際空港2期事業では、豊かな海の環境の創造に務めるため1期空港島護岸と同様に2期空港島護岸でも生態系を考慮した藻場造成に取り組んでいる。

(<http://www.kald.co.jp> 参照)

●人工干潟の整備 (大阪府)

阪南港阪南2区、堺泉北港堺2区では、周辺で発生する浚渫土砂などをリサイクルし、豊かな生態系を育む人工干潟を整備している。

阪南2区の人工干潟は、阪南港阪南2区整備事業の一環として、高潮対策や埋め立てによって失われた親水機能などを回復し、緑豊かな水辺環境を提供するとともに、水質浄化機能の向上、水生生物や鳥類の生息空間を創出し、地域の振興に役立てることを目的に整備している。

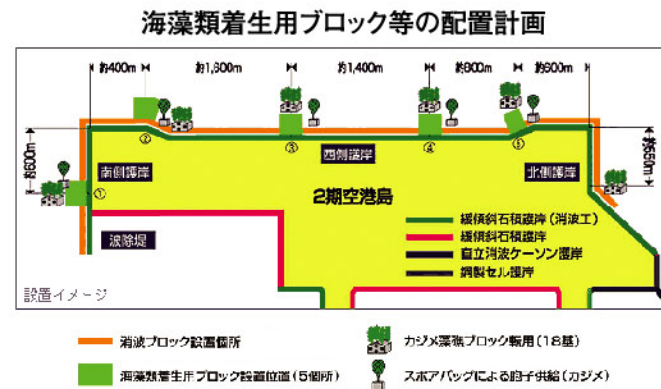
(<http://www.pref.osaka.jp/kowan/project>参照)



阪南2区位置図



阪南港阪南2区整備事業



親水性の向上 (海と人との関わりの回復)

●尼崎臨海緑地の緑化 (尼崎21世紀の森) (兵庫県)

産業構造の変化などで遊休地が発生している尼崎臨海地域に水と緑豊かな自然環境を創設し、暮らしにゆとりと潤いをもたらす環境共生のまちづくりを進める。その中で水辺づくりとして「親しみある良好な水辺の創造」を目標に①水質の浄化、底質環境の改善②生物の生息場の創出③失われた自然景観の回復④良好な生活環境としての水辺の再生を図る。

(<http://web.pref.hyogo.jp/morikoso/>参照)

●人工砂浜や養浜事業による海浜の再生

アジュール舞子、須磨海岸(神戸市)、南芦屋浜(芦屋市)、甲子園浜(西宮市)、りんくうタウンマープルビーチ(泉南市)など。



「尼崎21世紀の森構想」と
尼崎の森中央緑地の位置図

浮遊・漂着・海底ごみの削減

●大阪湾クリーン作戦

10ページ参照

陸域からの汚濁負荷の削減

●生活排水対策 (下水道整備、浄化槽整備など)

下水道、合併浄化槽などの普及、高度処理化によって、生活排水などの流入負荷を削減し、大阪湾の水環境を改善する。また、雨天時の放流が水質汚濁の原因の一つになっている合流式下水道を改善し、大阪湾の水環境を改善する。

●漁民の森づくり活動推進事業 (大阪府)

海や川の漁場環境を保全し、水産資源を守っていくためには「森」「川」「海」を一体としてとらえ、水域全体の環境保全を図る必要がある。そこで、漁業者が主体になり、森林組合や森林ボランティアとともに「魚庭(なにわ)の森づくり協議会」を設立。河川の上流にある森林の整備、植樹活動や河川の清掃活動、海域美化と水生生物の保全再生などを地域の人々に働きかけ、森林から海までの環境保全を実施している。

(<http://www.pref.osaka.jp/suisan/topic/naniwanomori.html>参照)



魚庭(なにわ)の森づくりに集まった漁業者



森林の整備



地元の人や幼稚園児、漁師さんが協力して海岸を清掃

*藻場とは

一般に、水底で大型水生植物が群落状に生育する場所の総称。幼稚魚のすみかや餌場となり、沿岸魚類の産卵場にもなっており、多くの生物の生活を支える場となる。また、海水中の窒素やリンを取り込んだり、酸素量を増加させるなど、水質浄化機能も備えている。